

第3章 日南線（志布志～南宮崎）

田吉～南宮崎は日豊本線に記載のため割愛。

第1節 5日目：2月18日（日）：宮崎への移動 晴れ

2024年2月18日（日）晴れ、南九州の旅の5日目は、次の日程で対応する。

① 枕崎駅から鹿児島中央まで移動

安全をみて、枕崎7時35分の始発から6時4分の始発に変更する。3時頃目が覚める。林家正蔵の演芸図鑑に登場した”林家正楽の挟み技”（遠い昔落語家にこのような方が居られたのを思い出す）には感服。3種類の作品（辰年因んだ作品、野球の作品他）を披露。鹿児島中央駅でゆったりした気持ちで②～④を対応するためである。枕崎駅で昨日お会いした方と出会う。また、小倉からやって来たという人（乗り鉄ファン）と話す機会を得る。チラシを手渡し、待ち時間を有意義に過ごす。御領駅辺りで夜が明ける。開聞岳が遠くに見える。うとうとしながら、今回歩いた沿線を堪能しめながら、鹿児島中央駅に向かう。鹿児島中央駅には8時51分到着。ビックカメラは10時のため、お土産コーナーで時間調整する。



※枕崎ステーションホテル（値段よし、部屋よし、アクセスよし、テレビよし、サービスよし）をチェックアウトし、鹿児島中央駅まで移動



※車窓から風景を楽しむ

②鹿児島中央駅に隣接したビックカメラで昨日予約した充電器購入

10時、予約していた充電器を手に取りホッとする。これで明日からの日南線の踏破の旅が、自由自在にデジカメで撮影できると。もし、購入できなければ、スマホ撮影のため枚数の制限の他、ブログ編集に相当の手間を要し、日南線の旅が水泡に帰す可能性があった。お金では買えない何かがあった。胸を撫でおろす瞬間であった。



③鹿児島中央駅でお土産の購入



※帽子を見て質問があったのでチラシを手渡す

④ランチタイム

不安材料も一掃され。美味しいラーメンを堪能できる。



⑤鹿児島中央駅から特急”きりしま10号”（11時50分発）で宮崎駅まで移動

2年前に歩いた沿線を噛みしめながら車窓からの風景を楽しむ。噴火している桜島を車窓からゲットする。日豊本線踏破の際、霧島神宮界限や青井岳界限などで苦労した歩きが蘇る。





⑥東横イン宮崎駅前でチェックイン

ホテルでチェックインまで30分あったので、ホテルのパソコンでカッシー館に関する情報検索で時間を潰す。15時チェックイン後、汗を流し寛ぐ。

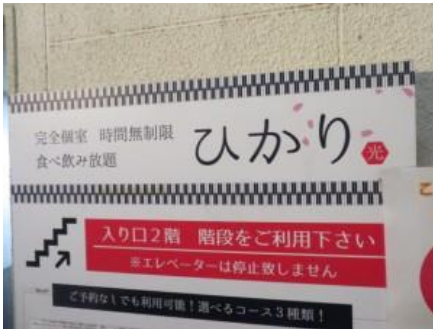


※宮崎駅前



⑦大学時代の友人と懇親会

17時半、ホテルロビーで冒頭ブログでも紹介した友人と「21時過ぎまで居酒屋”ひかり”で旧交を温める。そして明日からの英気を養う。



第2節 6日目：2月19日（月）：志布志～榎原 曇り／雨

2024年2月19日（月）曇り／雨、南九州の旅の6日目は、日南線の志布志駅から榎原駅（よわら）までの営業キロ28.4km（今回の旅で最長の営業キロ）に挑戦する。昨日友人と21時過ぎまで旧交を温めたので、宮崎駅が5時24分発であったので寝坊しないよう、スマホとホテルの目覚まし時計をセットし、就寝する。お陰で3時前に目が覚め準備することができる。歩きの旅は遅くても5時には起床するが、今朝は格別に早かったので用心が倍増する。昨日コンビニで買ったむすびで朝食とする。5時頃ホテルを出る。所要時間3時間12分要し、志布志駅にやっと到着する。新幹線”のぞみ”だと、東京～岡山に相当する所要時間である。北郷駅位まで暗闇で全く沿線の風景は見えず。この沿線を乗車してみて、飫肥駅は飫肥城跡があり由緒ある歴史がある駅と感じた。また、田吉～伊比井と北郷～志布志で山々の関係から「2つのエリアに区分されるなあ」と感じた。一方、日南線を踏破してこれらの直感があたった。



※いざ宮崎駅へ（4番ホーム、1両編成）



※昨日に引き続き、友人から頂いた1日乗車券を活用

Japanese 九州エリアニュース

城下町歎肥とイセエビ料理を満喫 古都の風情と美味を 味わう旬の宮崎へ

宮崎県南部、日南市にある歎肥は、約280年にわたり伊東氏5万1000石のお蔭元として栄えた城下町。“九州の小京都”と称される趣ある町並みを散策した後は、日南海岸の秋の味覚・イセエビを堪能しませんか。

現存する武家屋敷の門構えや石垣が往時を偲ばせる 歎肥の城下町

江戸時代初期の地割りが残り、善登の目のように整然とした通りに武家屋敷などが軒を連ねる歎肥。風情溢れる町並みは、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。

藩主・伊東氏の居城「歎肥城跡」をはじめ、明治時代初期に伊東氏が移り住んだ屋敷(彦安館、明治時代に活躍した外交官・小村寿太郎の生家、歎肥藩について紹介する「歎肥城歴史資料館」など、見どころが多数。また、かつて歎肥藩主に献上された「厚焼餅」や、魚のすり身に豆腐や黒砂糖、味噌を混ぜて揚げた庶民の味「歎肥の天ぷら」など、郷土料理の専門店も点在し、散策にぴったりです。

新築の郷土料理「旨神楽」、和風プリンのような甘い味付けと香蒸

江戸時代初期の藩主の御殿を復元した「松平の丸」

歎肥おすすめイベント情報

歎肥城下まつり

歎肥城跡を中心に開催される秋の風物詩。まつりの開始を告げるため大手門前を騎馬武者が駆け抜ける「早馬疾走」や武者行列、約1400人が繰り歩く「時代検査パレード」などが行なわれます。なかでも、江戸時代から伝わる郷土舞劇「彦平篇」は必見。大きな采女を乗らした折れ傘みで傘を振り、落とし差しと印籠を振に下げた若衆し衆で優雅な舞りを披露します。

●開催日:10月19・20日。日南海岸伊勢エビ産地まつり20分(歎肥城跡)。
問い合わせ:日南市観光協会 ☎0987-31-1134

詳しくは、[Q. 歎肥城下まつり](#) [観光情報](#)

騎馬武者が駆け抜ける「早馬疾走」がまつりの開幕を告げます

宮崎県指定風形民俗文化財の郷土舞劇「彦平篇」

漁解禁に合わせて登場する日南海岸の秋の味覚 宮崎イセエビ

日南海岸に面した日南海岸はイセエビの産地。産地に獲まれ、風潮に育まれたイセエビは、身がふふりでキュッと引き締まり、柔らかい食感が魅力です。毎年9月上旬から11月にかけて、イセエビ漁の解禁に合わせて「日南海岸伊勢えびまつり」が開催。南郷漁協が運営する「港の駅めいづつ」など、日南市内の参加店舗でイセエビ料理が提供されます。

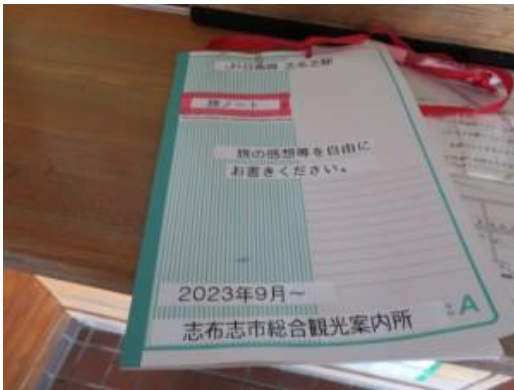
●「港の駅めいづつ」のレストランは10時30分～14時。月曜(祭日の場合は数日)休、不定休あり。日南海岸漁協から徒歩約17分。☎0987-64-1581

「港の駅めいづつ」(伊勢えび対面) 6,800円(写真は一部)

日南海岸漁協にある「港の駅めいづつ」惣菜館とレストランを併設

※写真はすべてイメージです。 28

歎肥の城下町
ジバング倶楽部
2024 9-10 より
(紅葉名所)



※志布志駅

本日の各駅舎立ち寄り時刻は次の通り。

志布志(8:46)～大隅夏井(10:00)～福島高松(11:11)～福島今町(11:50)～串間(12:42)
～日向北方(13:35)～日向大東(14:28)～榎原(よわら、16:30)

①雨模様であったが、志布志駅到着の際は薄日となる。駅ノートにメモする。駅員は不在であったが、観光案内所に係員が1名おられた。「ノートにメモしました」と言いながら、チラシも手渡す。「ありがとうございます」のお礼の言葉がある。レールウェイマップルによると、かつては志布志から西都城まで志布志線があった。また、志布志から国分まで大隈線があった。それ故、志布志は賑や町であったと推察される。しかし、いずれもこれらの路線は、1987年3月廃線となった。誠に残念。そんなこと考えながら国道220号線沿いにある大隈夏井駅を目指す。9時3分より、万歩計で183歩ある権現橋を渡る。9時13分、串間14km、日南47kmと記した道路標識があった。9時35分、255歩ある夏井大橋を渡る。9時37分、宮崎まで100kmと記した標識前を通過。9時48分より、227歩ある夏井新橋（夏井川）を渡る。10時少し前、今朝乗って来た車両が私を追い越していく。大隅夏井駅に10時到着するや否や列車は発車する。



※志布志駅界限



※大隅夏井駅への路



※大隅夏井駅

②10時10分、左手に故郷香川の白山（円錐形の山）のような山と対面。10時33分、大黒ホテル前を通過。10時39分、鹿児島県志布志市から宮崎県串間市となる。そして、串間4km、日南41kmと記した標識もある。10時47分より、261歩ある高松トンネルを通過する。牛舎が線路沿いにある福島高松駅には11時11分到着する。ツバメを見ると同時に、蛍光灯穴を利用した巣に餌を運んでいた。牛舎にツバメの餌が何故であるのであろう。それは恐らく牛の排泄物にハエなどが群がるからだろうと推察する。



※福島高松駅への路



※福島高松駅



※牛舎とツバメ

③11時30分、宮崎まで88km地点に到達。淡々と歩いた先に福島今町駅（11時50分）があった。



※福島今町壁への路





※福島今町駅

④11時56分、熱くなりシャツを脱ぐ。11時58分、串間市立有明小学校前を通過。12時10分、103歩ある今町橋を渡る。12時32分、JR線下を潜り鉄道の左側となる。いつの間にか本降りの雨となる。左手に道の駅（串間）があった。串間駅には12時58分到着。この駅でカッパを着用する。



※串間駅への路





※串間駅

⑤12時58分、県立福島高校前を通過。13時14分、JR線を潜り鉄道の右側となる。13時23分、宮崎まで81km地点を通過。その先に171歩ある橋がある。13時35分、日向北方駅には13時35分到着。少し行き過ぎたのをスマホで確認する。5分位ロスタイムが生じる。



※日向北方駅への路



※日向北方駅

⑥13時35分、遅まきながら串間神社で安全祈願する。日向大東駅には14時28分到着。



※串間神社、宮崎まで78 km地点



※日向大東駅

⑦日向大東駅から本日最大の区間（営業キロ8.1 km）である榎原駅を目指す。途中雨脚が強くなり、前方で雷が鳴り響く。歩いても歩いても鉄道の左側になれない。15時

37分、串間市から日南市となる。その先でやっと JR 線を跨ぎ、鉄道の左側となる。雨の中を淡々と歩く。やっと 16 時 30 分、榎原駅に辿り着く。いつの間にか雨は小降りになっていた。待ち時間を利用してメモする。



※雨脚強し、JR 線跨ぐ、宮崎まで 72 km





※榎原郵便局、榎原駅（活字消えて読めず）



⑧運よく榎原駅 17 時 16 分の快速”日南マリーン号”に乗ることができ、宮崎駅には 18 時 58 分に到着することができる。2 月 16 日の颯娃駅と反対の事態（嬉しい悲鳴）となった。時刻表によると、この快速は 1 日 1 往復で下りは宮崎～志布志、上りは志布志～南宮崎とあった。通過する駅（上り列車の配列）は、内之田、小内海、内海、折生迫、層山寺、南方の 6 駅とあった。

⑨コンビニで明日の朝食、本日の祝杯の氷結を購入後、駅構内の三角茶屋”豊吉うどん”で夕食をとる。ホテルに帰るや否や、びしょびしょになった運動靴に新聞紙をまるめ挿入しフォローする。そして、汗を流した後、氷結で祝杯をあげ、就寝となる。



第3節 7日目：2月20日（火）；榎原～飫肥 晴れ／曇り

2024年2月20日（火）晴れ／曇り、南九州の旅の7日目は、日南線の榎原駅（よわら）から飫肥駅（おび）までの営業キロ20.7kmに挑戦する。昨日と同様、宮崎駅を5時24分の始発で。3時頃起床し準備をする。びしょびしょになった靴は古新聞が功を奏し乾いていた。本日は、天気も良さそうだし、日南線のいいスポットを歩くので楽しみ。どんなメイクドラマがあるのやら。



※北郷で夜が明ける



※榎原駅

本日の各駅舎到着時刻は次の通り。

榎原(7:50)～谷之口(8:57)～南郷(10:01)～大堂津(11:02)～油津(12:40)～日南(13:20)～飫肥(14:44)

①北郷駅で夜が明ける。榎原駅(7時50分)を出るや否や昨日犬を散歩している方とお会いする。軽く会釈をする。8時1分、宮崎まで69km(南郷町)と記した標識前を通過。8時11分、堆肥の匂いを感じる。8時22分、上り列車と対面する。8時35分、宮崎まで67km、日南17kmと記した標識前を通過。8時53分、朝日が出て来る。8時57分、谷之口駅に到着。川を渡った先にあった。



※榎原神社



※宮崎まで 69 km地点



※谷之口駅

②9時1分、松尾神社で本日の完全を祈願する。9時2分、宮崎まで65km地点を通過。9時38分、暑くなったのでシャツを脱ぐ。9時43分、宮崎62km、日南12kmと記した標識前を通過。9時57分、日南市立南郷小学校があった。9時58分、停車場踏切を横切り、鉄道の右側となる。西武ライオンズを全面に打ち出した駅舎をもつ南郷駅には10時1分到着。駅員さんがお客を何か誘導している場面に遭遇する。この駅は一日2往復、南宮崎発の特急”海幸山幸”の始発駅であった。賑やかな駅前であった。



※松尾神社、宮崎 62 km、日南 12 km



※南郷駅への路



※南郷駅

③10時28分、JR線下を潜り鉄道の左側となる。その先に川の口バス停（宮崎交通）があった。10時2分、興の御前神社前を通過。10時35分、万歩計で292歩ある細田橋を渡る。10時46分、ローソンでチラシを5部印刷する。25枚位持参したのが3部位になったので。大堂津駅には11時2分到着。下り列車がやって来る場面であった。



※大堂津駅への路



※大堂津駅

④11時16分、宮崎 57 km、青島 42 km、鵜戸 16 kmと記した標識前を通過。11時23分、山王橋を通過。11時48分、宮崎まで 55 km地点を通過。11時51分より、404mある日南トンネル入口前に到達。このトンネルは歩行NGのため、大きく迂回した海岸線を歩く。12時、国道に合流する。日南大橋を歩き、JR線を跨ぎ鉄道の右側となる。12時8分、JR線はトンネルとなる。海岸線を大きく迂回する。国道220号線から国道222号線（賑やかな通り）に進路変更する。正当なルートであったが、不安になり、何人の方にもお世話になりやっと油津（あぶらつ）駅に到着できる。この駅舎も駅員が窓口業務を担当していた。国道から50m位左折した先にあった。この駅は先日の”呑み鉄本線一人旅”に登場した駅を思い出す。また、広島東洋カープを全面に打ち出した駅舎だった。



※11時24分、梅並木と対面



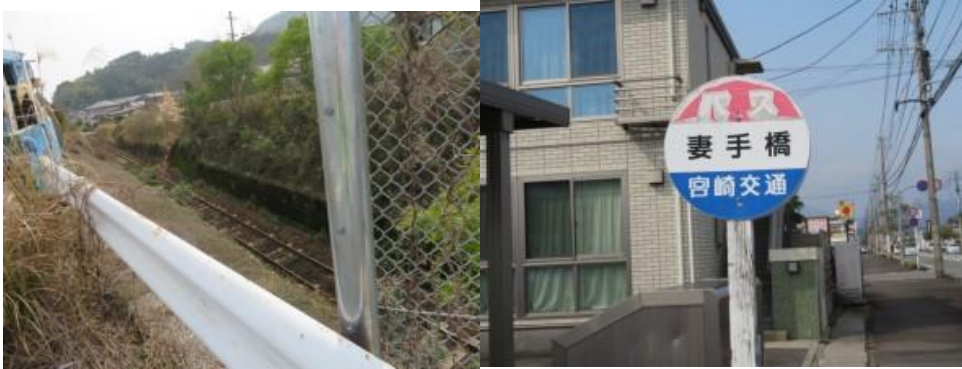
※油津駅への路



※油津駅

⑤再度、国道に戻り賑やかな通りを歩く。12時52分、JR線を跨ぎ、鉄道の右側となる。13時1分、妻手橋を渡る。13時7分、日南市上平野を通過。その先に針町バス停（宮崎交通）があった。13時20分、日南駅（駅員おり）に到着。駅前には伊東マツ

ショイ像があった。駅前でランチと思ったが、飢肥 15 時 1 分発の列車に遅れそうなのでパスする。



※JR線を跨ぐ、妻手橋（宮崎交通）



※日南駅への路





※日南駅

⑥13時43分、JR線を跨ぎ、鉄道の右側となる。13時52分、宮之前踏切を横切り鉄道の左側となる。14時15分、41歩ある五木松橋（戸高川）を渡る。14時22分、177歩ある前鶴橋を渡る。橋を渡った先で通りかかった人に飫肥駅の道筋をお伺いする。「大通りに出て真っ直ぐ歩き、橋を渡って左側にあります」と教えて頂く。教えてもらった道筋は、飫肥の歴史を感じる街並みが続く心地よい通りであった。反対に歩くと飫肥城跡があった。14時26分、200歩あるいないし橋（酒谷川）を渡る。橋を渡ると岩崎稻荷神社があった。ここから300m位歩いた先に飫肥駅（14時44分）があった。泰平踊像があった。この駅には駅員がいた。また、切符の発売機もあったが、駅員さんに宮崎までの切符をお願いします。「950円です。次の宮崎方面は15時1分」と応対がある。





※飢肥駅への道筋（本日の歩きで最も難関）



※飢肥駅

⑦まだ道筋は明るかったので、田吉までの道筋を車窓から勉強しながら宮崎方面に向かう。いくつか難関場所があった。南宮崎駅には16時10分到着。ホームを移動して特急車両（16時18分発）で宮崎駅まで向かう。宮崎駅には16時21分到着。



⑧汗を流し、一休みしたのち、駅構内にある立呑”ごんぱち”（17時半～18時半）で英気を養う。ママさんにチラシを渡しPRもする。そして、ホテルに戻り寛ぎ就寝となる。充実した一日であった。





※” どんぱち” にお邪魔して1時間位英気を養う